

膵 EUS-FNA 残渣検体の膵腫瘍マーカーが細胞診断に有用であった膵管癌の1例

◎米田 操¹⁾、棚橋 伸行¹⁾、前河 裕一¹⁾、金山 和樹¹⁾、山口太美雄¹⁾、長太のどか¹⁾、加藤洋介²⁾、橋本 秀哉³⁾
鈴鹿医療科学大学¹⁾、東海学院大学²⁾、社会医療法人畿内会 岡波総合病院³⁾

【はじめに】

膵 EUS-FNA は、オンサイトで細胞検査士が、細胞成分のみを選択的に採取し標本作成して細胞判定する。残りの粘液成分、血液成分は検査対象とならない。今回我々は、スライドガラスに付着した残渣血液成分の膵腫瘍マーカーである DUPAN2、CA-19-9、Span1 が診断に有用であった膵管癌の症例を報告する。

【症例】

症例は 80 歳、女性。閉塞性黄疸、総胆管拡張を認めた。CT にて膵頭部に約 12mm の腫瘍を認めた。血清膵腫瘍マーカー値は DUPAN2 : 90 IU/L、CA-19-9 : 107 IU/L、Span1 : 30 IU/L を示した。EUS-FNA の腫瘍細胞は少量でオンサイトの Diff・Quik 染色、Pap 染色、セルブロック HE 染色で確定診断することができなかった。手術が施行され、膵頭部の膵管周囲に膵管癌細胞が認められた。

【残渣血液成分検体処理方法】

残渣検体処理は、細胞診検査、セルブロック HE 検査の検体を採取した後の少量の血液、粘液成分が付着したスライドガラスを 5ml のリン酸緩衝液 (pH7.4) で洗浄し、その液を回収して 3000rpm、10 分遠心後、その上清を検体として Span1 (RIA・固相法)、DUPAN2 (EIA 法)、CA19-9 (CLEIA 法) で測定した。

【細胞所見】

オンサイトの Diff・Quik 染色は、正常膵管上皮を多数認められた。軽度の核腫大と配列の不整を示す異型細胞がごく少量認められた。Pap 染色においても同様であった。セルブロック HE 染色では、クロマチン増量、極性乱れた少量の異型細胞が認められた。手術材料の HE 染色所見は、多数の膵管癌細胞が見られた。

【残渣検体腫瘍マーカー】

残渣検体腫瘍マーカーは、Span1 ; 174900 IU/L、DUPAN2 : 5600 IU/L、CA-19-9 : 248760 IU/L であった。

【結論】

膵 EUS-FNA の残渣血液成分の腫瘍マーカーは膵腫瘍の診断に有用であると考えられた。